



# ～食用菊「モッテノホカ」を原料とする 抗抑うつ食品の開発～



日本大学 理工学部 物質応用化学科 教授 仁科淳良

## 研究の背景・目的

震災を受けた住民、看病に携わった看護学生の抑うつに関しては、阪神淡路震災時に研究が行われており、それぞれ全体の34.1%、29.2%に抑うつ傾向が認められている。

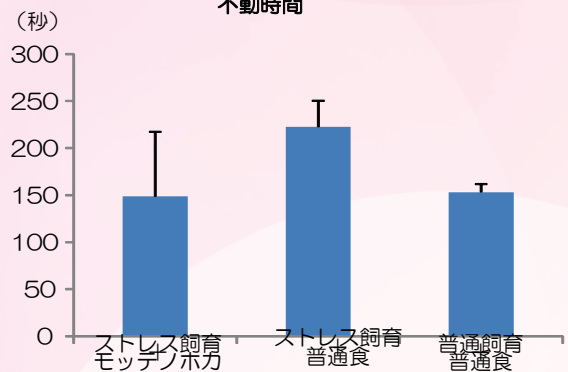
培養細胞と実験動物を用いて食用菊「モッテノホカ」が含有するフラボノイド（アカセチン、ルテオリン）が抗抑うつ作用（抗ストレス作用）を有することを明らかにする検討を行った。具体的には活性成分ルテオリンまたはアカセチンの作用機構解明、抑うつモデルマウスを使用した活性測定、モッテノホカ抽出物の安全性測定、活性成分を高濃度で含有する抽出物製造法の探索、モニター試験で使用する食品の試作を行い、モッテノホカ含有食品がストレス軽減に有望であることを示した。

## 研究開発の概要

比較項目	競合技術	競合技術の問題点	本技術
天然抗抑うつ食品素材	オトギリソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外から輸入する必要がある</li> <li>効果が弱い</li> </ul>	食用菊「モッテノホカ」抽出物の神経細胞に対する作用を確認した
活性成分の同定	オトギリソウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>フラボン類が活性成分という報告があるが推定の域をでない。</li> </ul>	モッテノホカ中のluteolinとacacetinが活性成分と同定した。
食用菊の機能性研究	モッテノホカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗酸化活性、抗ピロリ菌等の研究が行われてきた。</li> </ul>	モッテノホカ抽出物が神経に対してプラスの作用があることを確認した。
Siphocampylus verticillatus、地膚子、ウチワサボテン、ボダイジュ等の抽出物を使用した抗抑うつ素材	先行特許	<ul style="list-style-type: none"> <li>実用化されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>in vitro実験系で有効性を確認した。</li> </ul>



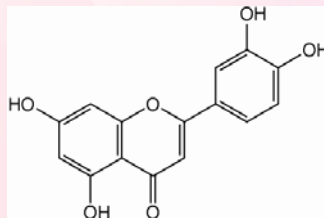
不動時間



尾懸垂試験結果  
ストレスが低減すると不動時間が短くなる



食用菊「モッテノホカ」



ルテオリン

本研究に関して共同研究相手や、新事業・新商品として実施可能な企業を探索しています。ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先 日本大学産官学連携知財センター

TEL: 03-5275-8139 / FAX: 03-5275-8328 / E-mail: nubic@nihon-u.ac.jp